



秋田エコplash株式会社
CSR・環境報告 2011

<http://www.ecoplash.co.jp/index.html>

2011年7月発行



企業理念・環境方針

企業理念

- 「リサイクル」を通して地球も人も豊かに
- 一、廃棄物を有効利用し、資源循環型社会構築に寄与
 - 一、秋田発のリサイクル製品を全国へ
 - 一、リサイクル事業を通じた地域貢献

環境方針

1. 当会社の事業活動における、ISO14001の要求を満たす環境マネジメントシステムを制定し、確実に実行・維持するために役割と責任を明確にし、循環型社会の構築につながるよう継続的な改善に努めます。
2. 容器包装プラスチックリサイクル業及び成形品製造にかかわる事業活動が、環境に与える影響に配慮し環境汚染の予防に努めます。
3. 環境マネジメントシステムの運用にあたっては、環境側面に関わる環境法令、条例及びその他の要求事項を順守します。
4. 事業活動に伴う環境側面のうち、技術的・経済的に可能な範囲で環境目的目標の設定を行い、定期的に見直しを行います。
5. この環境方針は、文書化して当会社の為に働く全ての人に教育・訓練を通じて周知徹底し、外部に対しても公表します。

改定：2009年10月7日

トップメッセージ

当社は、2004年度の経済産業省のエコタウン事業として、認定を受け、2006年4月から財団法人容器包装リサイクル協会の登録を受けて、家庭から排出される容器包装プラスチックのリサイクルを推進してまいりました。また当社は、秋田県エコタウン事業としても認定されており、秋田県の循環型社会構築の一翼を担うべく、秋田県及び能代市の環境政策の推進にも取り組んでおります。

一方、昨今の厳しい経済状況と、容器包装リサイクル制度の変更等により、原料の確保が厳しい状況となっておりますが、製品開発の方は、畦カバー、プランター、軽量U字溝、ガーデンパネルなどこれまで販売事業者との共同開発を行って製品化してきております。特に、本年度から、独自成形技術により、雨水貯留槽の製造が拡大しており、新たに水耕栽培用の樹脂架台の製造、販売にも着手しております。

今後とも当社は、地球環境への貢献はもちろんのこと、地域共に歩んで行き、先進的な取り組みを積極的に行うことで、地域の循環型社会構築と環境保全に寄与していきたいと考えております。

2011年 4月 14日

代表取締役社長 富永 行盛

会社概要

商号	秋田エコプラッシュ株式会社
所在地	秋田県能代市扇田字扇淵11番地1
創立年月日	2004年2月13日
資本金	2億5000万円
代表者	代表取締役社長 富永 行盛
役員等	専務取締役 本田 大作 取締役 大森 三四郎 取締役 臼井 哲夫 取締役 田宮 嘉一 監査役 広幡 信悦 監査役 三富 公雄
従業員数	49人
出資企業	三機工業株式会社 株式会社リサイクルワン 株式会社GCPリサイクルマネジメント 大森建設株式会社 中田建設株式会社 東北電力株式会社
許可	一般廃棄物処理施設設置許可 許可番号 指令山福環-1577 産業廃棄物処理施設設置許可 許可番号 指令山福環-1578 産業廃棄物処分業許可 許可番号 5231233

アドレス

アクセス	TEL:0185-58-5600 FAX:0185-58-5601 Mail: info@ecoplash.co.jp
------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------

沿革

2003年3月	秋田県北部エコタウン計画(「石炭灰のリサイクル事業の事業可能性」)拡充調査
2004年2月13日	秋田エコプラッシュ株式会社設立
2004年4月	平成16年度 経済産業省 エコタウンハード事業補助金申請
2004年10月	平成16年度 経済産業省 エコタウンハード事業補助金承認
2004年10月	秋田県北部エコタウン計画承認
2005年3月	本社工場建設工事着工
2006年3月	本社工場稼働開始
2006年4月	容器包装リサイクル法に基づく再商品化事業者として稼働

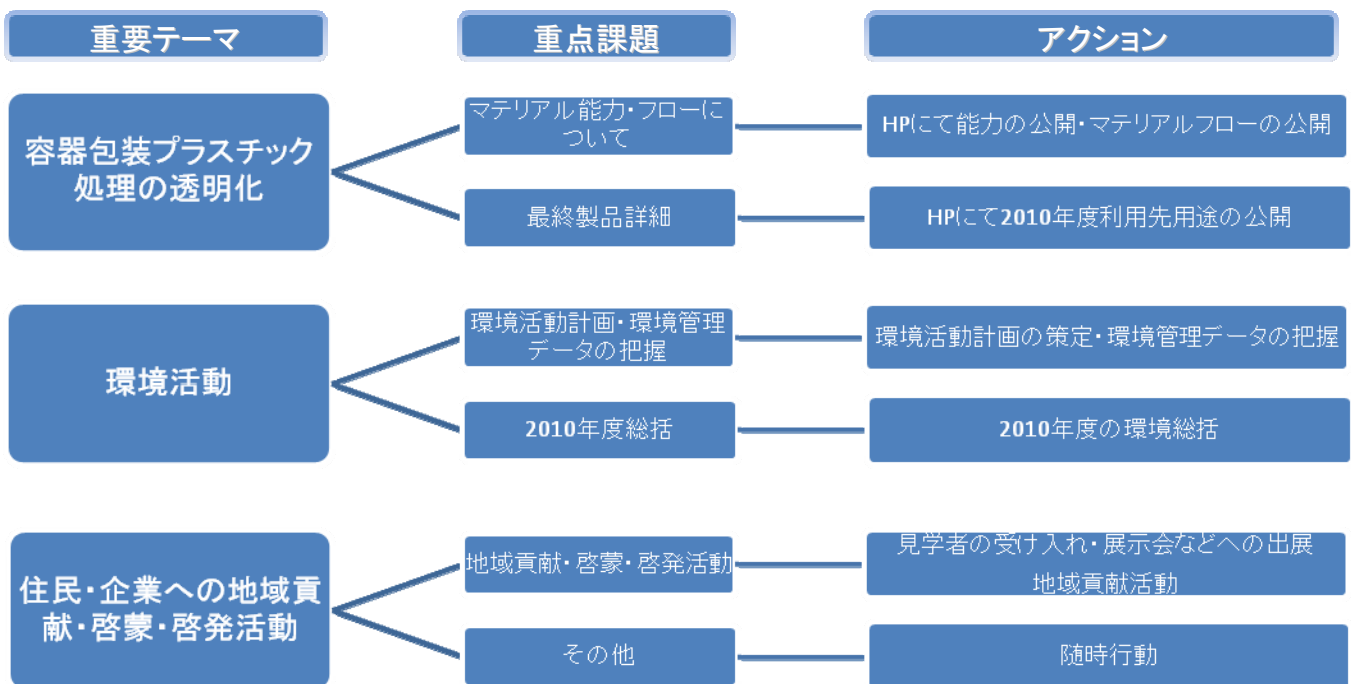
秋田エコプラッシュは地域の皆様、企業の皆様に信頼される企業に成長するために、環境活動・CSR活動を継続・改善し積極的に推進していきます。

CSR活動に向けて

秋田エコプラッシュは、環境方針に基づき、企業が果たす役割を明確化し、実行・維持していくことでお客様から信頼される企業に成長すると考えています。そのためには、従業員一人一人が成長し、考える力を持ち社員一丸となり、環境活動・CSR活動に取り組んでいきます。

CSR活動の継続に向けて

秋田エコプラッシュが全社員とともにCSR活動を進めるために、事業推進課を事務局とする「環境・CSR活動委員会」を年に2回開催することになりました。この会議では、啓蒙・啓発活動を考え、実行する計画を主に考えていきます。全社員が考え、行動することで目標に向けての活動をより推進していきます。

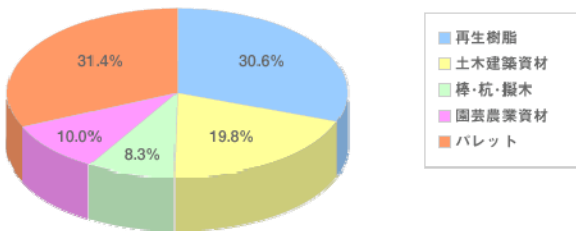


処理能力

施設の種類	破碎施設	設置年月日	2005年9月15日
処理する産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	処理能力	19.2t/日
稼働時間	24時間	処理方式	破碎選別圧縮
構造及び設備の概要	・破碎設備(主電動機75kW) ・PS減容設備(処理能力20kg/h)		

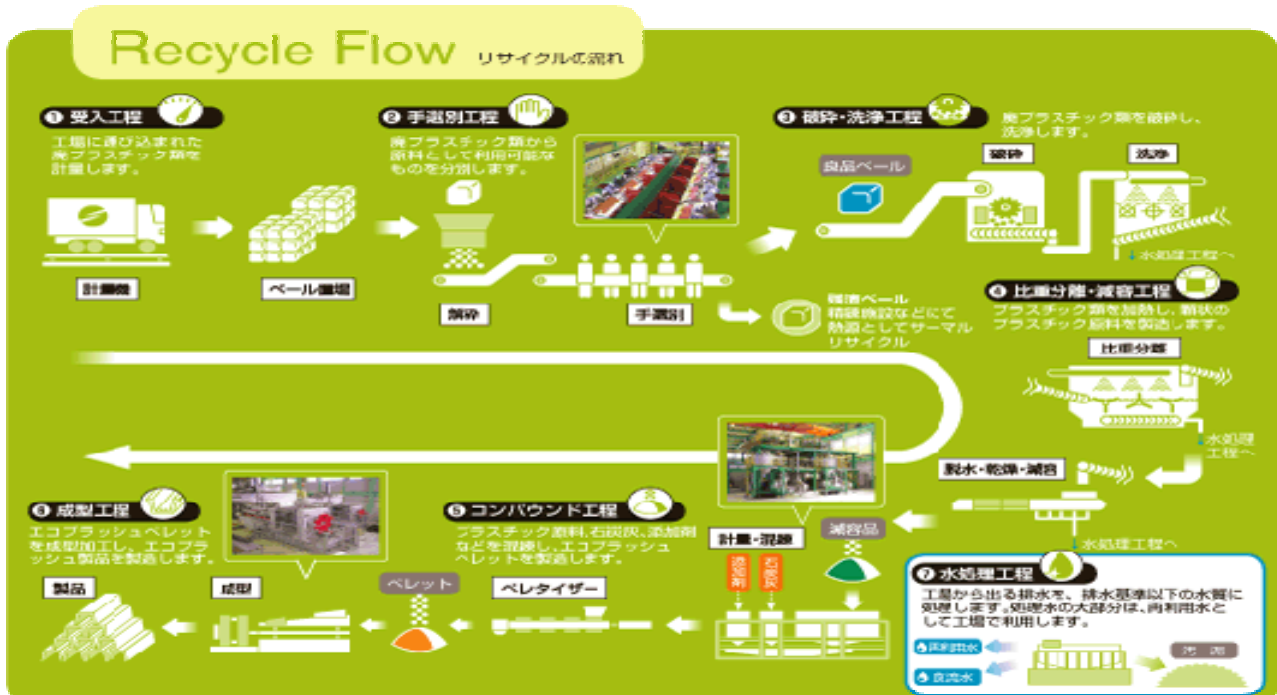
廃棄物の種類、直前1年分の受入量、処分量、再商品化量	廃棄物の種類	廃プラスチック類 ※容器包装リサイクル法に基づく、廃プラスチックに限る
	受入量	3,751t (2010年度実績)
	処分量	3,751t (2010年度実績)
	再商品化量	1,948t (2010年度実績)

平成22年度 再商品化製品利用率



- 再生樹脂: コンパウンドペレット(パレット向け)
- 土木建築用資材: 雨水貯留槽
- 棒・杭・擬木: ウッドデッキ
- 園芸農業資材: 植木鉢等
- パレット: パレット

処理フロー



環境負荷物質の抑制

環境活動計画と実績

秋田エコプラッシュでは下記の環境負荷物質の把握、削減を会社全体で取り組みます。
目標値は2009年度を基準として設定します。

方針	取り組み項目	活動内容
Co2排出量の削減	LPGガス使用量	フォークリフトのアイドリング抑制
	電力使用量	事務所等の昼休みの消灯、現場にはデマンド計を設置し無駄な電力の把握に努める
排水量の削減	排水量	水処理設備で再利用水として工場へ循環させる
	補給水使用量	
廃棄物の削減	コピー用紙	リサイクル用紙の使用、裏紙への使用を徹底
社会貢献	工場見学の受け入れ	見学者を積極的に受け入れ、環境に対する普及啓発に努める

項目	単位	目標値	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
LPGガス使用量	kg	500	405	400	460	480	500	395	460	560	600	720	570	550	6,100	508
電力使用量	Kw	270,000	196,700	209,300	246,700	245,400	251,300	206,000	221,800	261,300	289,600	290,300	273,600	262,200	2,954,200	246,183
補給水使用量	m ³	700	508	594	693	579	601	744	965	1,088	832	753	867	700	8,924	744
排水量	m ³	600	490	364	440	359	441	561	561	844	402	224	493	379	5,558	463
コピー用紙	枚/月	5,000	4,500	5,000	5,000	5,000	5,000	4,500	5,000	4,500	5,500	6,000	5,000	4,000	59,000	4,917

水質測定データ

項目	単位	測定値①	測定値②	計量方法 規格=JIS K 0102
水素イオン濃度 pH	pH	7.3	7.1	規格 12.1
浮遊物質 量 SS	(mg/l)	5	7	環境庁告示第59号
化学的酸素要求量 COD	(mg/l)	50	25	規格 17
生物化学的酸素要求量 BOD	(mg/l)	6.3	4.9	規格 21及び 32.3
N-ヘキサン抽出物質 量	(mg/l)	5未満	5未満	環境庁告示第64号
備考	採取日	4月22日	9月27日	
	採取時刻	14:30	13:40	
	水温(°C)	19.0	28.0	

①LPGガス使用について

フォークリフトのアイドリングを抑制し、ハイブリット車へ変更したが期待したほどの効果は得られませんでした。

②電力使用量について

デマンド監視装置にて、電力監視を実行しました。会社全体で節電に取り組んだ結果、目標を達成することができました。デマンドの監視装置を利用し、さらなる節電に取り組みたいです。

③補給水使用・排水について

補給水の目標は未達成に終わった。原因としては、冬場は活性汚泥の負荷を減らすため、上水を普段より多く使用し、さらに各所の凍結対策をするため使用量の増加につながりました。その年の気候により上水の使用量も大幅に上下することがわかりました。

排水については、水処理の稼働調整を行い、工場内にて上手に循環できました。

④コピー用紙の削減

リサイクル用紙を適用させることができました。

コピー用紙の削減は達成したが、まだまだ削減できるという意見が多数あり来年度に向けての目標設定が重要となりました。

⑤工場見学の受け入れ

見学者を積極的に受け入れることができた。良かった点は秋田県経由での見学者が多かったことや、小学生の社会科見学の場として受入をできたことでした。

また、容器包装プラスチックの排出市町村住民が自分達が出した容器包装プラスチックがどのようにリサイクルされているか見学に来社し、マテリアルリサイクルに興味を持ってもらったことが良かったと思います。今年度以上に来年度も見学者の受け入れを推進していこうと思いました。

見学会の様子



2010年度は不法投棄現場の清掃活動に参加しました。
近隣事業者とともに現場を清掃・分別し新聞等にも取り上げられました。

不法投棄現場の清掃



環境展への出展



2010年5月25日～5月28日
2010NEW環境展/2010地球温暖化防止展

来場者数は1,500名

容器包装リサイクルの仕組みや再商品化利用
製品の説明をしました。

東日本大震災の後、ボランティアの一環として被災地のがれき撤去を行いました。また、この様子はテレビ朝日「モーニングバード」、フジテレビ「新報道2001」などにて放映されました。秋田エコプラッシュとしてできることをこれからも行っていければと思います。

がれき撤去の様子



消防訓練・AED講習

毎年、消防訓練とAED講習を行い従業員の防災・救急救命に対する意識向上を促しました。



環境関連法規への違反&全体評価及び見直し

環境関連法規への違反

環境関連法規への違反はなかった。ISO14001を取得していることもあり従業員の法規への意識は高いと思います。また、廃棄物処理法などの講習会にも積極的に参加させており、意識の向上は常日頃から心がけさせています。

秋田エコプラッシュは工業団地内ということもあり、独自の規制もあるのでそちらも順守して今後も公害防止に努めていきます。

全体評価及び見直し

昨年は会社全体として、大きな目標を掲げて工場を稼働させてきました。未達成の項目もいくつかありましたが、会社全体で話し合い、行動できた結果にはとても満足のものでした。

容器包装プラスチック事業を開始した当初と比べても従業員の意識の向上は目覚ましく、従業員自ら意見を話してくれるようになりました。

会社としては見学会の積極的な推進、従業員の意識向上、地域貢献・啓蒙・啓発活動を積極的に行ってきました。能代市からの評価もよく地元の展示会などではたくさんの方々がブースに顔を出していただいています。

環境関連では上水の使用量が目標から乖離してしまったことが悔やまれます。やはり寒冷地ということもあり、活性汚泥の負荷低減・凍結防止、などの理由から乖離したので、そちらも反映させた2011年度の目標を設定しました。

2011年度は東日本大震災により一層の【節電】に意識を集中させます。この機会に会社としても出来得る限りの取り組みを行い環境配慮を積極的に行う会社として成長していきたいと思っています。